

前日の雨でメイン会場の河川敷は足元が悪く砂やゴミ版を敷き整地され、曇り空の中14000人のランナーが折り返し地点を目指しスタート。

昨年3・11東日本大震災、2年前強風のために中止され、本大会より「板橋 City マラソン」と名称を新たに3年ぶりの開催となりました。  
世界陸上3位の千葉真子さんを応援ゲストに迎え、「いつてらっしゃい、帰ってくるのを待っています」と大声でエールを送っていました。

スポーツ推進委員は救護、表彰、支部、浮間舟渡駅で誘導案内を担当。途中雨もパラつきましたが、次々とランナーはゴール。走ることに魅力、過酷に思うフルマラソン42.195kmに挑む勇氣とパワーに圧倒されることへの魅力を感じられる大会でした。



Staff

西新井支部  
初回の大会から参加しているという70歳のランナー。救護所のテントに入る時間も惜しみ、早く冷却スプレーを脚に吹きつけ、ゴールを目指して走り去っていきましました。

### 東京マラソン2012

主役はランナーばかりじゃない  
観衆もボランティアも

冷気が支配する静かな日曜日の朝を迎えた街が、熱気と興奮に包まれる街に変貌するのにそう時間はかからなかった。今年で6回目を迎えた東京マラソン2012は2月26日、42.195kmという距離と時間の中で繰り広げられる大舞台となった。色も鮮やかなスタップウェアに身を包み、コース整理員として所定の位置に着く。沿道の観衆等の整理、選手をサポートするのが主な役割である。お目当ての選手が通りかかると観衆からは一きわ大きな声援が飛び、友人を見つけては頑張っていると応援にも自然と力が入る。

ボランティアに自ら参加することでランナーとしての自分の経験になるのの思いから今回、初めて担当させて頂いた。テレビで見て知っているつもりでも、そこに行かなければ分からないこと、得られないものがあるように思う。多くの主役たちが演じてきた長編ドラマもやがて終りを迎えると街はまた、いつもの風景に戻って行った。

(文責 黒田)



専用スタッフジャンパーを身にまとい業務に従事



1月29日に第7回卓球教室が若木小学校体育館にて行われました。中学生を含む30名が参加し、講師には西澤美佳(劉ティンティン)先生が昨年に続き指導に来てくださいました。基礎から応用まで3時間の講習でしたが、途中ゲームも交えて真剣な中に笑顔もあり、充実した講習会でした。

毎回超一流の講師に来ていただいています。これは卓球用品大手の(株)日本卓球の協力によるものです。また、大塚製薬からも製品の提供を受けました。当日はスポーツ振興課より加藤係長も出席し開会式にて挨拶をいただき、その中で総合型スポーツクラブの説明をしていただきました。一般にはまだ馴染みの薄い

総合型スポーツクラブですがこのように地域住民、行政、企業が力を合わせて着実にその根をを広げて行くのだと思います。



浮間舟渡駅(誘導班)  
到着のピーク時間は7時8分。降りるやいなやランニング姿で走っている人。楽しそうに会場に向かう家族、カップル、応援グッズを抱えるグループ。みんな今日一日楽しみにしている様子です。

北支部  
北支部には関門所がある。復路・関門所につくやファイトを見せる人、足が動かなくなってしまう人さまざま。かなりの走者が時間切れでここから収容車にてゴール。

足立支部  
行きは声援に笑顔で手を振る姿が見られましたが、帰りは手を挙げるのがやっとならなくなった様子で、往復では全く違った光景でした。救急車で1名搬送、その他は大きな事故やケガはありませんでした。

ゴール(担架班)  
40人程を救護所に搬送しました。気力で走り、ゴールして倒れこむ人。走りきって思わず感動の涙を流す人。参加者それぞれのドラマが展開されました。



### 地域スポーツ支援研修会

平成24年1月28日(土)

場所…高輪区民センター  
テーマ…地域の活性化とスポーツ振興と生涯スポーツの新たな時代にスポーツ推進委員が進む方向は

講師…早稲田大学スポーツ科学学術院 准教授 松岡宏高

53年ぶりにスポーツ振興法が改正され、スポーツ基本法が施行されました。新しいスポーツ基本法についての特徴と、スポーツ推進委員の新たな役割について発表されました。スポーツ基本法の前文の中で、「スポーツはすべての人々の権利である」という一文が含まれています。それは、アスリートや児童だけではなく、高齢者や障がい者、中高年などすべての国民を含むという意味を持ち、同時に実施側、つまりスポーツ推進委員を含む行政のスポーツに関わるものに義務が発生するといった意味をも含んでいるということです。このほかにも大きくスポーツ推進委員に求められているものが変遷しようとしていることとです。今までのようにイベントをくりかえし行っているだけでは区民のスポーツ実施率は上らない。これからは日常的にスポーツが行われるような環境整備に努めなければならぬということでした。国としても、国民のスポーツ実施率の目標値を定めていくことで地方自治体に指示してくるものと思えます。その中で、板橋区スポーツ推進委員協議会はそのような選択をしていくのか、かじ取りが必要になってくるものと思われます。

(文責 脇元)

### 平成23年度 東京都女性スポーツ推進委員研修会

平成24年3月3日(土) 新宿区立四谷中学校において聖徳大学大学院准教授 大田繁先生が講師で「子どもの体力低下を考える」(身体づくり乳幼児期から)をテーマに講演と実技が行われました。

子どもたちの身体は大きくなっているが、基本的な動きや身のこなしといった運動能力が伴っていない。原因として交通機関の発達や電化製品の発達により快適で便利になり生活様式の変化とテレビゲーム遊びや学習塾と子どもたちを取りまく環境、リズムの変化。また、20年前に比べ体力低下の要因となる3つの間・家族・子ども同士と一緒に遊ぶ仲間・時間・安心して遊べる空間(広場)が減少していることも考えられます。

昔遊びや、とんだりねたりはねたり、ボールを使って遊び感覚のスポーツを子どもと保護者が一緒にすることで、楽しく動作が身につきます。

▼ジャンケン遊び ▼一分間開眼片足立ち  
▼ストレッチ体操(特にアキレス腱、ふくらはぎを念入りに) ▼ゴム風船(ふくらませながらビニールテープを十文字に貼ると重さがプラスされゴムボールのようにはずむ) ▼新聞紙を折り紙鉄砲 ▼大縄跳びを使っての実技体験を気持ち子どもにも戻り懐かしく行いました。



(文責 五十畑)

榎本(写真右)・五十畑スポーツ推進委員が出席